尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース

vol.14

cover photo : Makoto KATOH

- message ： 福嶋啓祐 第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 ～ 2021 in 倉敷大会長
- report ： 第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 ～ 2021 in 倉敷
- event preview ： リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫 2021
- voice ：活動と参加してみた！ 認定デイ・ケアマスターの声
- new！ ：会員向け無料教育セミナー
- topics：ついにスタート！ 在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース
- meet our company：いしかわ内科 通所リハビリテーション

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

message

史上初めての完全オンライン開催。研究大会開催の在り方そのものを考える機会をいただけた。

第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 ～ 2021 in 倉敷 大会長
医療法人福嶋医院 理事長

福嶋 啓祐

第 42 回全国デイ・ケア研究大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大により 2020 年 7 月開催のための準備期間を含めて約 3 年、結果的には研究大会初の完全オンライン開催となりました。

当初はハイブリッド開催に向け準備を進めて参りましたが、開催まで 1 か月弱の段階で、国内の感染状況ならびに政府や各都道府県からの発出されている様々な要請等を鑑み、今回、オンライン形式での開催に至った次第です。

現地にて参加を登録いただいておりました皆様方には、開催日が差し迫ったなかでの開催形式の変更により、大変なご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫び申し上げます。ほぼ全てがマニュアルのない中で、暗中模索・試行錯誤の繰り返しでの試みとなったことで、講師の先生方をはじめ、参加登録してくださった皆様方へお知らせ等の連絡が遅くなり、ご不安・ご迷惑をお掛けいたしました。誠に申し訳ございませんでした。

急な開催形式の変更にもかかわらず、当日の Live 配信・その後のオンデマンド配信を合わせて、多くの方がご参加・ご視聴くださいました。一般演題・ポスター発表につきましても今回は現地での発表が中止となったことで、音声付パワーポイントスライドをご提出いただいてのオンデマンド配信としての発表形式となりましたが、73 演題ものご発表をいただけました。このように、本研究大会を無事に盛会裡に終了できましたことは、ひとえに皆様方のご指導とご協力・ご支援のお蔭であることを改めてここに感謝申し上げます、誠にありがとうございました。

完全オンライン開催としたことで、これまでの開催方法・開催方式では経験することのできなかったメリット・デメリットをはじめ、様々な不備な点をご指摘いただけた研究大会となったのではないかと感じております。この経験を基に、今後、このような研究大会開催の在り方そのものを考える機会をいただけたことに深く感謝いたします。

今回の研究大会が、今後の大会の在り方を考える際の一つの参考になることが出来れば、私どもにとって無上の喜びでございます。

一方、今回完全オンライン開催となったことで、心残りであったことのひとつは、ここ倉敷の伝統的な趣のある景観を楽しみながら、瀬戸内の海の幸、晴れの国岡山の誇る果物、酒造りでは万葉集にも歌われるほど歴史が古い備中杜氏と呼ばれる集団が造る数々の地酒を実際に味わっていただく機会を持てなかったことであります。様々な状況が落ちついた際には、是非倉敷にお越しいただく機会をお作りいただければと思います。

次大会は、来年 7 月 1 日・2 日の予定で奈良県春日野にて開催されます。1 年後に再び皆様にお目にかかれることを祈念いたします。

ありがとうございました。

information

知的好奇心は止まらない。止めてはいけない。

JADC がお贈りする研修会、今年度後半も充実の安定開催中。

昨年度は中止、延期を余儀なくされた JADC の研修会。いかにして会員の皆様とつながりながら有益な研修会を開催できるか模索し続けてきましたが、今年度はオンライン開催が上半期より順調に開催されています。機能も内容も大幅にブラッシュアップされて好評の JADC 研修会へぜひご参加を。

JADC EVENT SCHEDULE

開催日		研修会	開催地・開催方法
10月	9日（土）	リハマネジメント研修会	オンライン開催
	10日（日）	状態・疾患別プログラム研修会	オンライン開催
	16日（土）～17日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
	22日（金）～24日（日）	在宅リハ EG コース ②	オンライン開催
11月	18日（木）～19日（金）	リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫 2021（◎ JADC 主催シンポジウム）	ANA クラウンプラザホテル神戸
	27日（土）～28日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
12月	5日（日）	明日から使える！初めての通所リハ実践研修会	オンライン開催
	10日（金）～12日（日）	在宅リハ EG コース ③	オンライン開催
	18日（土）～19日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
1月	18日（土）～19日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
2月	12日（土）	経営戦略セミナー	オンライン開催
	19日（土）～20日（日）	生活行為向上リハビリテーション研修会	オンライン開催
3月	4日（金）～6日（日）	在宅リハ EG コース ④	未定
	未定	第 9 回スキルアップセミナー	未定
	26日（土）	第 7 回三団体合同研修会	オンライン開催

通所リハに“今”求められていることが満載。

通所リハにおける リハビリテーションマネジメント 実践マニュアル 好評販売中です。

このたび、JADC が監修しました「通所リハにおけるリハビリテーションマネジメント実践マニュアル（中央法規出版）」が出版されました。

令和 3 年度介護報酬改定により、旧リハビリテーションマネジメント加算Ⅰ・介護予防リハビリテーションマネジメント加算が基本報酬に包括され、今やリハビリテーションマネジメントは通所リハビリテーションにとって当たり前のものとなりました。リハビリテーションマネジメントを効果的に取り組むためには、SPDCA サイクルに則った介入が必要です。本書には、通所リハビリテーションの総論から、SPDCA に沿ってどのように取り組むことが求められているか、各疾患の介入方法、サービス提供時間別による取り組みの違い、地域連携、そして今改定で強化された科学的介護の推進（LIFE）について等、幅広い内容が掲載されています。

本書はまさに、「今」通所リハビリテーションに求められていることが満載です。ぜひともご一読いただき、通所リハビリテーションの発展へお役に立てますと幸いです。

書名：通所リハにおけるリハビリテーションマネジメント実践マニュアル
定価：本体 4,400 円（税込）
発行：中央法規出版株式会社
監修：一般社団法人全国デイ・ケア協会

目 次（一部抜粋）

- 活動と参加に資する通所リハビリテーションの役割
- ICF の理解とリハビリテーションマネジメント
- リハビリテーションマネジメントにおける SPDCA サイクル
- 状態別・疾患別リハビリテーション（運動器疾患・認知症・中枢神経疾患・進行性疾患）
- 活動と参加のためのサービス提供時間別リハビリテーションの特性と実際
- 利用開始時における医療機関との連携
- ケアマネジャーとの連携
- 生活機能向上連携加算
- 移行支援加算
- 活動と参加につながる VISIT（LIFE）の内容とメリット
- VISIT 運用事例

など

POST コロナ時代の全国大会。はじめてのオンライン開催。

第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 ～ 2021 in 倉敷

やる気とつながり　地域共生社会での通所ケアの役割

2021 年 9 月 3 日（金）～ 4 日（土）

活動報告

明確な目的意識、目標、危機管理を共有して、三施設中心の実行委員会で開催を遂行。

今回の第 42 回全国デイ・ケア研究大会を振り返り、実行委員長の挨拶を述べさせていただきます。今大会は、三施設が中心となり実行委員会を立ち上げました。明確な目的意識・目標・危機管理を共有し仲間を信じ、多様性・調和を尊重し諸問題を解決してきました。

当日の二日間粛々と予定を遂行できました。しかし通信の不具合が生じ、皆様にはご迷惑をお掛けしお詫び申し上げます。コロナ蔓延社会での開催でしたが、POST コロナ時代の全国デイ・ケア研究大会の幕開けと位置付けができました。事故もなくコロナ感染者を出すこともなく、終了できたことは、近藤国嗣 JADC 会長始めこの大会に関与していただいた皆様の御蔭と感謝申し上げます。9 月 6 日以後一か月間のオンデマンド配信も含め、さらにリハビリテーションのお役に立てれば幸いです。

今後とも近藤会長を中心として、医学に基づく通所リハビリテーションを核とした地域リハビリテーションを発展させ、国民の幸せの助力に貢献できることを願っています。

実行委員長　山脇 康正

近藤 国嗣 JADC 会長

福嶋 啓祐 大会長

青木 佳之 名誉大会長

江澤 和彦 JADC 理事

斉藤 正身 JADC 名誉会長

新田 惇一氏 厚生労働省
老健局老人保健課介護保険データ分析室長

学術局

本大会では完全オンライン開催というデイ・ケア研究大会として初めての取り組みでした。開催にあたり、演題発表をしていただいた方におかれましては全国各施設の方から新型コロナウイルス感染症で業務量が膨大に増えている中、録音データの提出など煩雑な作業にもご協力いただき感謝申し上げます。

準備につきましては運営局、事務局、広報局と所属施設が異なること、各施設での感染対策における行動制限などにより十分な参加ができない施設もありました。そうした中でひとつの役割を誰が何をいつまでに行うか、その確認を誰が行うかなどの部分が、当初学術局内でも入れ違いになることも多かったと次回への反省点となりました。今後こういったオンライン開催に先立ち各局、局員が違った施設に所属し開催地域の広い範囲から準備に参加していただく方を増やしていくためには、共有資料のスリム化、やることリストの見える化と期限を含め、その責任局の明記がより重要になってくると痛感いたしました。最後に新型コロナウイルス対策による開催方法の変更など開催に携わる多くの方のご協力により開催できました事を心より感謝申し上げるとともに、今回の経験が次回以降の研究大会開催の一助になれば幸いです。

事務局

2020 年開催準備の段階から、手作りの大会を 3 法人で創るという大会長の理念を基として準備をすすめてまいりました。結果としては、オンライン配信については専門業者に依頼いたしましたが、その他の作業につきましては実行委員会で決定した内容を各法人各局で分担し大会開催に至りました。

通常業務を行いながらの準備作業であり、3 法人の業務負担の増大等により紆余曲折もございましたが、無事に大会を終えることができ安堵しているところです。

ありがとうございました。

倉敷大会の実行委員会のみなさん

感染対策局

本大会については、新型コロナウイルス感染症拡大下という異例の開催となりました。当日は、人員規模の縮小ほか、Live 配信会場や録画配信会場の環境整備等、会場スタッフやご来場頂く先生方の安全と安心を守るための基本的な感染防止対策を徹底。開催様式の変更につき、皆様には本当にご不便とご迷惑をおかけ致しました。しかし、コロナ禍の影響でイベント開催が危ぶまれる中、無事に大会を終えられたことは私共にとってかけがえのない経験となりました。これも偏に皆様の温かいご支援とご協力のおかげと、心より感謝を申し上げます。

運営局

9 月 3・4 日に第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 ～ 2021in 倉敷が開催されました。今大会は、2020 年 7 月に倉敷市芸文館での開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により 1 年延期され、Web 開催となりました。Web 開催は初めての試みであったために配信上の不手際もありましたが、無事終えることができました。また、学会の目的の 1 つである同じサービスを提供する県外の方達との情報共有はできませんでしたが、オンデマンドでの確認ができるなど Web 開催での利点も多くあったと思います。講師の皆様や後援、協賛を頂いた皆様、大変ありがとうございました。

＼次は、奈良！／

2022 年度奈良大会の実行委員会のみなさん

第 42 回全国デイ・ケア研究大会 2020 ～ 2021 in 倉敷

大会の報告と感想

今回の大会はオンラインでの開催となり、『やる気とつながり～地域共生社会における通所ケアの役割～』がテーマでした。2 年ぶりの大会、現地での様々なスタッフとの交流はできませんでしたが、大会が開催されただけで、どことなく懐かしさと嬉しさを感じながら講演を聴講しました。

考えさせられた内容として、近藤会長の講演の中で、『リハビリとして介入した内容を生活機能の改善に向けて、効果的に生活へ落とし込む必要があり、そのためにも利用者と関わる全ての方と情報共有し、解決する方策として「リハビリテーションマネジメント（以下リハマネ）」が重要』と話されており、リハマネの意味と重要性を再認識しました。デイサービスにはなく、デイケアにあるものとしてリハマネが挙げられます。リハマネの本質と意味をデイケアで関わる職員全員で明確に理解し、利用者に関わる方みなさんと利用者の課題を共有し解決していく。このことが本来あるべきデイケアの姿と思います。当たり前と感じる反面、本当にできているのであろうかと反芻し、再度自事業所を振り返らねばと感じたところです。

大会を通して、コロナ禍であっても通所リハがその役割を遂行する為に、利用者のみならず、地域を含めて何を求められているか、その「求め」を専門職としてどう向き合っていけるか、これを適切なストラクチャー、アウトカム、プロセスを踏まえ考え続けていきたいと感じました。

初めてのオンラインは、学びという観点では、現地までいかずとも参加できることで、これまでなかなか遠方なため参加が困難だった方が受けられる点や、同時並行で行われていたはずの講演がのちにオンデマンドで見返せるなどは、今回の大会を通してとても有益と感じたところです。

来年は ICT を活用しつつ、ぜひ直接的にコミュニケーションできるような場面も期待したいと思います。楽しみにしております。

介護老人保健施設イマジン　リハビリテーション科
作業療法士　多良 淳二

ToPiCs

EXPERT GENERALIST COURSE

さらなる高みへ。“在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコース”ついに開講！

兼ねてよりご案内していました在宅リハビリテーションエキスパート・ジェネラリストコースが、満を持して８月より開講しました。

コロナ禍の影響を受け一年の延期となり、JADC としてもどのようなかたちが適切なのか、検討を続けた一年になりました。しかし、当会では早くから主催研修会のオンライン開催を実現し、様々なノウハウを身につけた結果、本コースにおいてもオンラインで実施する自信と根拠を持つことができました。８月の第１クールでは Zoom を使用した完全オンラインにて実施し、講師の皆様もリモートにてご参加いただきながら実施しました。３日間で合計９つの講義とグループワークを行い、皆様のご協力もあり大きな混乱もなく開催することができました。様々な分野のエキスパートからいただくお話はどれも大変貴重な内容であり、「第２クールが待ち遠しい」といった感想も受講者からいただいています。

今年度は 29 名の受講者と一緒に、４クール 35 講義を一緒に学んでいきたいと思います。社会情勢を考慮しながら、最も安心かつ最適な学びの場をご提供してまいります。今回受講が叶わなかった皆様も、次年度にぜひご受講くださいませ。

リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫 2021

Let's integrate! ～リハビリテーションの心技体～

2021 年 11 月 18 日（木）～ 19 日（金）
ANA クラウンプラザホテル神戸
（ハイブリッド開催）

■ 医療職、介護職 .....、あらゆる職種の方々が一同に会す一大コンベンション。

リハビリテーション・ケア合同研究大会（以下リハ・ケア大会）は、平成９年に第１回を熊本で開催し、今年が 22 回目となります。過去の大会に参加して、リハ・ケア大会は医療職・介護職その他病院施設等で働く様々な職種が行う取り組みを紹介しております。ゆえに、参加者は普段触れることができない職種の取り組みを知ることができる非常に貴重な大会です。全国デイ・ケア協会は、その前身である連絡協議会の頃より主催６団体の１つとして長らくリハ・ケア大会に関わり、その時期に重要となるテーマを掲げ、シンポジウム形式で参加者へ伝えたいメッセージを発信して参りました。

今年度は介護報酬の改定により、生活行為向上リハビリテーション実施加算にも算定要件の変更があり、再度クローズアップされております。全国デイ・ケア協会では、この生活行為向上リハビリテーション実施加算に焦点をあてたシンポジウムをご用意いたしております。当協会の土井勝幸副会長が、これまでに行ってきた利用者への生活行為の再獲得に向けた想いをシンポジストと共に熱くお伝えいたします。以下に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

今年度のリハ・ケア大会は新型コロナウイルス感染症の影響で学会の中止や延期が続いている中、学びの機会を止めてはいけないという思いで、感染症対策を万全にハイブリット（オンラインと現地開催の同時実施）という形で本大会の開催が準備されており、現地に行かずともその中身を知ることができる機会となります。

ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

シンポジウム概要

今回の、リハビリテーション・ケア合同研究大会 兵庫 2021 において、当協会は主催者団体シンポジウムとして、生活行為向上リハビリテーションを取り上げ、テーマを『活用していますか？生活行為向上リハビリテーション』と設定しました。

活用していますか？
生活行為向上リハビリテーション

ご存じのように、「生活行為向上リハビリテーション実施加算」は、平成 27 年度の介護報酬改定において、利用者の QOL 向上に向け、生活行為の向上や役割の創出、社会参加等に資するプログラムとして、通所リハビリテーションに新設されています。この加算は、通いのサービスである通所リハから、実際の生活の場、活動の場に出向いての訪問指導が柔軟に行えるという画期的な特徴を持っていました。

しかしながら、リハビリテーションマネジメント加算の上位区分の算定や、６ヶ月の提供をもって原則利用を終了することを要件とし、介護報酬も高額であることから普及するに至っていません。平成 30 年度改定では、より「活動と参加」の支援が必要な予防給付へと対象も拡がり、普及に向けた制度の充実が図られましたが、それでも有効に活用されている実績が見えてきません。

「活動と参加」の支援に向けた象徴的なリハビリテーションとして、大きな期待が寄せられている仕組みであることも踏まえ、令和３年度の改定では、現場で取り組みやすく、かつ当事者からも理解が得られるよう、本加算の単位数や算定要件等が大きく見直されています。

今こそ「活動と参加」の支援に向け、当協会を上げて「生活行為向上リハビリテーション」への取り組みを加速させるメッセージを発信したいと思っています。

本シンポジウムでは、通所リハビリテーションにおける生活行為向上リハビリテーションの実践例を紹介し、新しい算定要件のメリット、取り組みを通じて見えてきた課題等について報告し、改めてその目的や効果を理解し、普及につなげたいと考えます。

【座 長】
土井 勝幸（全国デイ・ケア協会 副会長　介護老人保健施設せんだんの丘 施設長　作業療法士）
【シンポジスト】
松永 玄　（谷津居宅サービスセンター　理学療法士）
都甲 幹太（介護老人保健施設あやめの里　作業療法士）
【報告内容】
1. 土井 勝幸：生活行為向上リハビリテーションの目的、加算要件、活用の例示など
2. 松永 玄　：リハ病院併設の通所リハにおける生活行為向上リハビリテーションの実践
理学療法士の視点も併せて報告
3. 都甲 幹太：老健施設併設の通所リハにおける生活行為向上リハビリテーションの実践
作業療法士の視点も併せて報告

要注目

JADC 会員限定

会員向け無料教育セミナー 定期配信中

ON DEMAND

JADC では会員様を対象に、オンデマンド配信による無料教育セミナーを企画しました。当会の役員が講師となり、現場で活かせる講義を定期的に配信しています。

第１弾は、野尻晋一理事（社会医療法人寿量会介護老人保健施設清雅苑施設長）より「**パーキンソン関連疾患の生活期リハビリテーション**」をテーマにご講義いただきました。ご覧になられた方もいらっしゃるのではないでしょうか。

パーキンソン病の発症におけるメカニズムから、生活期のアプローチ方法まで具体的にご講義いただき、日常の業務に活かせる内容でした。ご視聴された皆様からいただいたアンケートの回答を一部掲載いたします。

講義内容について

- パーキンソン病の、“なぜその症状が出現するのか”や、在宅でよく目にすることやその対応など改めて理解できました。
- 疾病の詳細なメカニズムから、具体的な生活場面での工夫まで、「サイエンスとアート」を感じました。非常に勉強になりました。

無料教育セミナーについて

- 今回のセミナーのように、疾患の病態解説、リハビリテーション、生活支援が結びついた形のお話は、理解を深めやすいです。
- このような企画をしていただきありがとうございます。
- デイケア協会の会員になってよかったと思います。

NEXT！ “よくわかる認知症” by 富家隆樹理事 OCT~

10 月は富家隆樹理事より「よくわかる認知症」をテーマにご講義をいただいています。本セミナーは会員様限定となりますが、受講費は無料です。ぜひとも多くの会員様にご視聴いただき、日々の業務にお役立ていただけますと幸いです。

今年度の配信予定

―12 月配信―
通所リハにおけるクレーム対応

― 2 月配信 ―
精神科疾患を有する方のリハビリテーション

活動と参加してみた！ @ リハマネジメント研修会

通所リハだからこその強みを再認識。様々なヒントに溢れていました。

今回の研修は、感染対策のこともありZoom によるオンラインで開催されました。令和３年度の介護報酬改定により様々な変更がなされたので、それを改めて学ぶ機会となりました。

特に印象に残っていることは、まず、オンラインでの研修開催によるメリットです。移動時間を要すことなく参加が可能なので、多忙な現場においては、参加しやすいと感じました。

通所リハビリでは、住み慣れた地域での活動参加を支援することが求められています。リハ会議の実施の際には、多職種連携やアセスメントの結果に沿って目標を立てて介入し、再評価、といったSPDCA サイクルを回すことの重要性を学びました。

また、Zoom による研修であるにもかかわらずグループワークがあり、他施設では多職種で活動参加やリハ会議に取り組むなど連携が上手くいっている話を聞くことができました。取り組みの方法はひとつではないため、より視野を広げ、柔軟に対応していくことが重要であり、自分達の施設でも共有していきたいと思いました。

今回の研修を活かして今後も、利用者様との対話を大切にすることで、目標を明確にして介入していきます。その人が笑顔ある穏やかな生活、「その人らしさ」を実現するため、多職種協働で支援していきたいと思います。

通所リハビリテーション　デイリハ　「元気になあ～れ」
作業療法士 斎藤 未玖

活動と参加は、JADC が掲げる重要なアイデンティティのひとつです。時代のニーズに応えるべく、様々な企画・研修を展開してきました。

コロナ禍の影響は、物心両面に大きなストレスを与え続けています。その一方で、人は様々な分野、場面に叡智を結集させこの問題に対峙してきました。そこから生まれた新たな発見、思考は、より人を強くしていくのではないかと感じます。

JADC の研修会もオンライン開催で対応を進め、定着していく中で、オンライン

ンならではのメリットも発見しより良質な研修会をお届けできるようになってきています。今回の活動と参加してみた！は、本誌創刊以来、26、27 人目となるお二人です。皆様の声をぜひ参考にしていただき、各種研修会に参加していただけたらと存じます。

なによりも、上の斎藤さんは群馬県の施設、下の三浦さんの施設は長崎県、まさにオンライン研修ならではといえるのではないでしょうか。研修のスケジュールは、２ページの information でも確認できます。

活動と参加してみた！ @ 状態・疾患別プログラム研修会

介護福祉士として、新たに学べたこと、再確認できたこと、意識の向上と。

状態・疾患別プログラム研修会に参加させていただきました。

今回の研修では通所リハの役割、通所リハにおける加算等の制度的な部分、疾患別の利用者へのアプローチの方法等を詳しく聞くことができました。

また、他職種との情報交換、情報共有をしながら利用者･家族のニーズを知り、アプローチしていくことの大切さを改めて学ぶことができました。

研修後、利用者に声かけをする際は体調確認だけではなく、不安や悩み、やってみたいこと、楽しみにしていること等を聞くようにし、運動練習中やリハ会議前のカンファレンスでも利用者の気持ちをセラピストへ伝達するよう心がけています。

介護福祉士として利用者の気持ちに寄り添い、利用者の些細な気持ちの変化に気付くことができるように、利用者のことをもっとよく知ろう！ という気持ちを持って日々関わっていきたいと思います。

今回初めてのオンライン研修会、オンラインでのグループワークへの参加で緊張もありましたが、協会スタッフの方の丁寧な対応でスムーズに安心して研修会を受けることができました。また、グループワークでは他事業所のセラピストの方々と通所リハについて様々な意見交換ができ、とても貴重な経験になりました。ありがとうございました。

通所リハビリテーション銀屋通り
介護福祉士 三浦聡美

新制度　認定デイ・ケアマスターの声

Master's Voice

丸 晃典　医療法人社団淳英会　おゆみの診療所 通所リハビリテーション（理学療法士）

私が所属している医療法人社団淳英会では４事業所で通所リハビリテーション事業を行っており、私自身は2013年より通所リハに携わっています。2015年から勤務しているおゆみの診療所では、１時間以上２時間未満×４コース、３時間以上４時間未満×２コース、６時間以上７時間未満の計７コースで、利用者と家族のニーズに合わせた自立支援に資するリハビリテーションを多職種協働で提供しています。

自立支援に資するリハビリテーションを提供するにあたり、羅針盤となるのが通所リハを含めた介護保険制度の理解です。認定デイ・ケアマスター取得の必須要件であるスキルアップセミナーでは、制度を基として、通所リハの役割や期待されていることを詳細にご講義いただきますので、管理者はもちろん通所リハの従事者が受講すべきセミナーだと思います。私もスキルアップセミナーを受講し、旧認定制度の認定管理者を2018年に取得しました。スキルアップセミナーは通所リハに関わってから受講するまでの振り返りと、受講後のサービス提供をするにあたり、非常に有意義なプログラムとなっているので、認定デイ・ケアマスター更新時の受講も楽しみにしています。

現在勤務しているおゆみの診療所ではプレイングマネジャーとして従事しています。プレイングマネジャーとして従事するにあたり、特に意識しているのが、利用者の自立支援の目標達成に向けた事業所内外のマネジメントになります。スタッフ教育においても、利用者の目標達成に向けて、制度を理解した上でより良いマネジメントができるように徹底しています。自立支援の目標達成の成果は、利用者と家族、近隣ケアマネジャー、法人内外へ報告することで、通所リハの意義をお伝えするようにしています。全国デイ・ケア研究大会でも発表させていただき、事業所の成果をお伝えする大変貴重な機会となりました。また、発表に際しては、全国の通所リハに従事する方達との意見交換もすることができ、サービス提供への活力と自信をいただくことができました。時代の流れとともにニーズが変化する中で、これからも通所リハの利用者の自立支援に向けて、より良い関りができるように研鑽していきたいと思います。

在宅生活での活動量が向上できるように、自宅でできるエクササイズ動画を youtube で紹介しています。ぜひご覧ください！

Master's Voice

小川 彰　医療法人共和会　介護老人保健施設伸寿苑デイケアセンター（理学療法士）

私は併設の小倉リハビリテーション病院の回復期リハ病棟、障害者施設等一般病棟、外来リハ、訪問リハで勤務した後、2011年よりデイケアに勤務し、デイケアにやりがいを感じ、勤務希望を続け10年が過ぎました。

さて、「認定デイ・ケアマスター」についてですが、私は旧認定制度「認定管理者」の第１期を受講し、現在に至っております。今回は施設紹介でなく、個人の紹介と事前に伺っておりますので、十分ではありませんが私の活動を報告したいと思います。

そもそも認定デイ・ケアマスターとは、通所系サービスにおいて、サービスの質の向上や利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動の支援等、通所系サービス従事者の育成を目的としています（一部ホームページ抜粋）。取得にあたっては、地域リハ、通所リハの歴史に始まり、運営面や認知症など様々なテーマの研修を受講しました。認定デイ・ケアマスター取得後は、認定証と一緒にいただいたピンバッチをつけて研修等に参加させていただいています。実際私自身は、認定取得後多くの経験をさせていただいております。リハビリテーション・ケア合同研究大会でのシンポジストや全国デイ・ケア協会研修の講師、また現在は研修認定委員として活動させていただいています。いずれも違った視点で勉強させていただき、皆様の意見を聞くたびに課題が多いことをその都度実感しております。また、日々の業務は、基本的にはセラピストとして従事しており、個別のリハビリや訪問、リハ会議や担当者会議へ参加し、一方で契約や送迎、運営面にも携わっています。個人的には、笑いのリハビリテーションを追求していますが、コロナ禍となり、大きな声で笑えない日々が続いております。おそらく多くの事業所でソーシャルケアへの対応に難渋し、予防的なかかわりが中心になっているのではないかと思います。いつか大きな声で笑えるように、皆様と一緒にデイケア魂で乗り越えていけたらと思います。

最後に、デイケアスタッフは職種の業務以外を担うことも多く求められます。まだまだ取得者は少ないですが、様々な視点を持てるきっかけとして、認定デイ・ケアマスターを目指し、全国に二刀流の仲間が増えると嬉しいと思っています。

meet our friend

会員施設自己紹介

１分でも、１秒でも多く。
“あなたに寄り添う”を全職員共有の価値観に。

医療法人社団三友会
いしかわ内科 通所リハビリテーション

〒880-0033 宮崎県宮崎市神宮西１－49－１
https://www.sanyu-kai.or.jp

はじめに

青い空と海、四季折々の花や緑に囲まれ豊かな自然と温暖な気候に恵まれた宮崎県宮崎市中心部の宮崎県総合文化公園のそばに当院デイケアは位置しています。

当法人は、地域で暮らす人達が、住み慣れた自宅で、親しい人に囲まれて、安心できる生活を継続できるよう医療や介護などの在宅サービスを提供しながら、地域住民の健康増進と生活を支援していくことを使命としています。

法人内施設の特徴

法人内にはデイケア以外にも宮崎市内に３つの通所事業所があります。健幸くらぶ万智（要支援・軽度要介護者を対象）、祇園デイサービス（認知症・重度要介護者を対象）、人の話くらぶ佐智（ことばが不自由な方を対象）。各施設特徴を持つことでご利用者の状態に合わせてサービスを提供できる体制を整えています。また退院・退所後から集中的にリハビリができるように訪問リハビリテーションも行っています。

24時間緊急電話対応（オンコール）

デイケアのご利用者様が24時間365日、安心して在宅生活を続けられるように24時間オンコール体制を整えています。具体的には、常勤職員がそれぞれ交替で夜間や日・祝日の電話対応を行っています。ご利用者様からは体調の急変や療養に対する問い合わせなどがあり、場合によっては医師や看護師が緊急に駆けつけています。オンコールの対応としては「休みの電話連絡」などがほとんどですが、一人暮らしの方からの相談や老老介護の方で「夜中に起こせなくなった」などの電話が入り、職員が駆けつけることもありました。いずれにしても安心した在宅生活を継続するためには、何かあった時に直ちに誰かに連絡がつき、支援が受けられることが重要です。当法人は平成７年以来、このような24時間オンコール体制をとっております。

デイケアの特徴

当院デイケアでは大切にしている全職員共有の価値観があります。「あなたに寄り添う」です。１分でも１秒でも多くご利用者様と１対１で関われるように常に心がけています。デイケア以外での関わりも大切にし、特に自宅の状況を知るために介護職員やセラピストが積極的に居宅訪問しています。実際に生活している居宅環境の評価を行い、時間をかけて動作・介護指導を行うことで個別性のあるケアができています。個別性のあるケアを提供することでご利用者様やご家族様の「心の声」を聴くことができています。

また、リハビリ会議は居宅で行い、居宅での動作確認や環境評価、介護負担感等を中心に家族の気持ちをゆっくりと時間をかけて汲み取れるように対応しています。リハビリ会議を居宅で行うことにより、デイケア利用時に見えてくる問題点や、会議室で話し合いながら見えてくる問題点よりも、現実的な具体性のある問題点が発見できるようになりました。また、居宅での生活を多く知ることでご家族様との信頼関係の構築も行いやすくなりました。

さいごに

私達はこれからも日本で１番「あなたに寄り添う」デイケアになることができるように成長していきます。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、老健のデイケアや病院・診療所のデイケア等、全国様々あるデイケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供等を目的として開設し、これまで活動を続けてまいりました。

現在当会は介護報酬改定における通所リハビリテーションの窓口を担い、報酬改定時においてはリハビリテーションマネジメントと通所リハビリテーションの意義を問い、加算として位置づけ、質に関わる根幹を表現してまいりました。

また、重度者に対してもより手厚いケアが提供できるサービスとして、地域でのリハビリテーション資源として重要であることを明確にしてまいりました。生活行為向上リハビリテーションの普及については特に、厚生労働省および各種団体との連携役とし、研修や企画に参画し現在に至ります。

これも一重に、会員施設の皆様から頂いた多くのご意見や、ご協力の賜物でございます。

ついては、今後一層地域でのデイ・ケアの役割を全うするために、協会としてより多くの「声」を賜りたく、皆様のお力をお貸しください。

より一層、通所リハビリテーションが地域に必要とされ地域生活の中核を担うサービスとなるために、今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員特典

Join Us

◎ **当会主催研修会、研究大会を会員価格にて参加可能**
・全国デイ・ケア研究大会、リハビリテーション・ケア合同研究大会　・主催研修会
※オンライン開催の研修会も多数企画していきます

◎ **「デイケアニュース」の定期発送**
・年２～３回発行しております。
各種研修会情報、協会の活動報告、トピックス、会員施設紹介などご提供しています。

◎ **制度関連や現場で困っていること等の問い合わせが可能**
・原則、会員様のみご対応させていただいています。

◎ **会員ページの閲覧が可能**
・各種資料のダウンロード、研究大会抄録集、当会実施アンケート結果などの閲覧が可能です。
今後さらなるリニューアルを検討しています。

◎ **会員への定期的なメール配信**
・研修会案内
・制度関連情報　等

※正会員（事業所）の職員は全員上記特典の対象となります。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 101-0035 東京都千代田区神田紺屋町 14 番地千代田寿ビル３階
TEL：03（5207）2710　FAX：03（5207）2711
E-mail：info@day-care.jp　URL：www.day-care.jp

編集後記

COVID-19 感染拡大の波が日々変化しており、皆様も日々ご苦労をされていることと思います。当会の全国研究大会もその影響を多大に受け、ハイブリッド形式を断念し完全オンライン形式にて開催されました。時代に流れに沿った形で開催できたことは、新たな一歩になったことでしょう。オンライン開催は、自宅や事業所から参加できることで移動の負担は少ないといった利点もある一方で、現地の雰囲気を肌で感じられないことや、皆様との交流が直にできないといった課題も見受けられました。次年度こそは現地開催が叶うことを祈るばかりです。

さて、今号では第 42 回全国デイ・ケア研究大会の開催報告や、来るリハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫のご案内を掲載しています。また、新たな研修企画も開始されました。皆様の学びが日々続けられるように、当会もさらに邁進してまいります。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

佐々木 海人（JADC 広報委員）
東京湾岸リハビリテーション病院

デイケアニュース 14号　2021年10月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会